

全国連盟通信

第32期 No.1
2016年4月28日
発行責任者
石川正三



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: zenkoku@njsf.net URL http://www.njsf.net

つなごう 支援の輪

新たな体制で連盟組織の飛躍に向けて



↑最近の活動から

- ①復興支援 第5回春休み子どもスキー(岩手)
- ②復興支援 第5回春休み子どもスキー(宮城)
- ③よこはま月例マラソンで熊本地震
義援金のよびかけ
- ④世界同時マラソン「よこはまビビチタ」

第32回全国総会は、史上初めて日本オリンピック委員会からの挨拶とスポーツ庁のメッセージが寄せられ、スポーツ連盟の創立以来50年の活動の集大成と新たな旅立ちの場として特筆される全国総会となりました。これを受けて総会で新たに選出された新役員の第1回理事会が4月9日、10日の2日間行われ、新しい50年の歴史を刻む第一歩を踏み出しました。

理事会はまず新たな全国連盟の機構と分担を決定し、方針執行の準備を整えました。機構そのものは、これまでと変わらず、理事長、副理事長、事務局長で構成する三役会議のもと、①スポーツ活動・組織局、②スポーツ権・平和運動局、③広報局、④国際活動局、⑤総務局の5局で構成し、全国総会方針の執行にあたります。またいくつかの委員会やプロジェクトチームを設けました。

同時に、今回の理事会の役割分担と運営にあたっては4つの点を強調し確認しました。

第1は、各局は自律的に方針の具体化し実行することを重視し、総会の方針と課題の実践に責任を負うことです。

第2に、局の体制と活動において、若手の3役や理事が大いに力を発揮できるようにすること。同時に、そのためにも、ベテランの役員・理事がその経験を大いに生かし、理事会全体の連携を強化することに貢献すること。

第3に、各局の自律した執行の強化はかるためにも、総会方針全体への理解を深め、各局の役割を常に考え活動することです。そのために各局の分担や活動の領域を超えた、情報の共有、相互の協力を努力しましょう。

第4は、「スポーツ権の時代」にふさわしい「頭の若返り」をしてがんばろうということです。日本社会全体も大きな変革の時代にあります。スポーツもその中であって、スポーツ独自の積極的で進歩的な役割を果たすことが求められています。そのキーワードが「スポーツ権の時代」です。何ができるか、知恵と力を結集しましょう。

「スポーツのひろば」を引き続き増やす活動に加えて今年、今期は「連盟組織の飛躍的な前進」を重点課題として取り組みましょう。

(全国連盟会長 和食昭夫)

第32期第1回理事会は、4月9～10日の2日間、第32回定期全国総会で決議した活動方針を執行するための機構と体制を決め、本格的活動に入ることを主な目的とし、東京都豊島区の帝京平成大学内集会室・スポーツ連盟事務所・東部区民集会室に、役員・理事27名の出席で開催されました。また、役員レベルアップと新任理事のために、「リーダー養成講座」も小林章子副理事長と佐藤信樹副理事長の講師で開催をしました。

冒頭の挨拶で石川正三理事長は、「理事のみなさんが、積極的に立案・実行し、始めから最後までひとつのテーマを追いかけて、『受け継ぐこと』『チャレンジすること』を実践してほしい」と述べました。

全員が自己紹介の後、総会総括では《表1》の概要報告や総会運営の他、基本的な評価と今後の課題が提起され、総会のありかたを良くするための検討がなされました。議案への意見として提起された「各種目組織を取り巻く状況把握」などを形にする各種目協議会との意見交換や議案への反映は今期の重要課題です。そのためにも全国種目組織との定期協議などの取り組みをすすめること。また、総会での討論時間を十分確保する問題は、「総会の位置づけと基本的な内容」などについて抜本的な見直しと合わせた検討が求められています。

閉会のあいさつに立った和食昭夫会長は、「広い視野から見極めることが肝心で、総会決議を見ながら進め、組織拡大強化に全力投球、『スポーツのひろば』普及は気を緩めず頑張り続けること、若返りは年齢だけでなく頭も若返り、知的関心を持つ取り組みや提案をしよう」と語りました。

総会総括

1、今総会は、昨年までの創立50周年7大事業、「スポーツのひろば」拡大推進を成功裡に進めてきたことなどに示されたように、50年の歴史を受け継ぎ、今後の取り組み課題を明らかにした総会となりました。

2、総会には来賓として、総会史上初めてJOC広報・企画部部長の中森康弘さんが「スポーツの発展のため、多大なる協力を」とあいさつされました。また、スポーツ庁からも初めて「スポーツの価値を全ての人々に広げることを目指す皆さまの活動に

《表1》第31回定期全国総会概要

- ★出席代議員=92名
 - 都道府県：22組織 65名
 - 全国種目：10組織 27名
 - 定数119名 出席率77.3%
- ★役員=38名 傍聴=5名
- ★来賓=4名 報道=3名
- ★メッセージ・祝電=団体21 個人11
- ★議決結果
 - 第1号議案、第2号議案、第3号議案=全会一致
 - ★発言者数16名、文書発言4名、事前文書発言7名
 - ★分散会・分科会を11グループで実施



←全国総会

対し、深く感謝申し上げます」とのメッセージが寄せられました。また、衆議院議員・宮本岳志さん、元全日本ウエルター級チャンピオン・小林秀一さん、顧問の伊藤高弘さんがあいさつされました。

3、役員選出では、新役員の平均年齢は2.5歳下がって55.6歳となり、ある程度の世代継承は進みましたが、女性役員の登用では前回より1名減となり増員はなりませんでした。

第32期理事会の機構と分担

理事会の基本的な機構は、スポーツ活動・組織局、スポーツ権・平和運動局、広報局、国際活動局、総務局の5局とし、全理事がいずれかの局に所属します。各プロジェクト及び各委員会は、各局の枠をこえたメンバーで構成し、理事以外の部員を積極的に確保できることを確認しました。役員理事の任務分担は、会長・副会長・理事長は直接的に局を担当せず、必要に応じて各局の会議に参加します。また、各局には局長と局次長（複数可・変更や追加も可）を置き、方針の執行にたずさわります。各局の取り組みについては、以降のページをご覧ください。

(全国連盟事務局長 福島邦夫)

メンバー：宮内泰明（局長）、福島邦夫（局次長）、渡辺紀雄、和田利男、菅原利幸、永谷祐一、前川由香、天川有美、柿崎勝富内佳男、大淵康寛

「新たなチャレンジを開始しよう」との総会議案をもとに32期の活動方針、計画、方向性等を局会議で討論、議論しました。

全ての種目組織と地域組織がクラブとともに生き生きと活動しよう

減少傾向にある現状を打破し、増加へ転じるためには何をすればよいのか、組織拡大、組織化の課題を検討しました。その中で、組織拡大のためには、新たな県連盟や種目組織を立ち上げることが重要であり、ブロック会議では県連盟立ち上げを議題として必ず入れてもらい討論すること。局員は担当のブロック会議で新たな県連盟立ち上げに向け率先して提起することを確認しました。また各ブロックでターゲットの県を絞り、県連盟立ち上げの運動を行って行くこととしました。

全国の種目組織へは、県連盟立ち上げを模索する手段として、総会資料等の調査やアンケートを行い都道府県分布を把握し、空白県連盟内に存在するクラブや種目組織同士の橋渡しを行って行く事としました。併せて種目の協議会立ち上げも視野に入れて運動も展開していきます。

またホームページやSNS（フェイスブック等）の活用も組織拡大には不可欠であり、未導入組織を32期の間になくなるよう広報局と連動して進めます。大会情報や活動状況などの情報発信が可能となるようにしていきます。

「空白組織対策事業助成制度」の活用を大いにはかる

前出のブロック会議や出前大会での空白県、空白組織については積極的に空白組織対策事業制度を活用し、組織拡大を図っていきます。

全国スポーツ祭典と全国競技大会の成功を！

第31回全国スポーツ祭典は、関西を中心に開催されます。2020年の東京オリンピックが「真の平和のスポーツ祭典・国際連帯の絶好の場」となることを

心から願い、今後3回の全国祭典は、2016年、2018年そして2020年と連動して大きな視点から「協力・共同」を意識して開催、準備を進めていきます。

バスケットボールプロジェクト フット・ア・セットの活動

前期に続きバスケットボールプロジェクトチーム【福島、和田、北川、萩原（※）、近藤（※）（※は局外協力員）】により組織化や大会運営をサポートします。11月19日、20日に兵庫県立総合体育館で開催される第31回全国スポーツ祭典バスケットボール大会の成功に向けて取り組みます。バスケットボール全国大会では祭典基金より20万円の補助を受けることが理事会で了承されました。また、「バスケットボール重点取組地域」を大阪、京都、福岡とし、都道府県連盟と連携して交流大会の開催を図ります。

フット・ア・セットの普及については、全国サッカー協と協力して取り組みます。

バスケットボール、フット・ア・セットの2種目では2桁の地方祭典開催を目指し、大会助成費用として3万円／1大会を祭典基金より補助することも確認されました。

（スポーツ活動・組織局長 宮内泰明）



兵庫・バスケットボール交流大会（上）
大阪・フット・ア・セット大会（下）

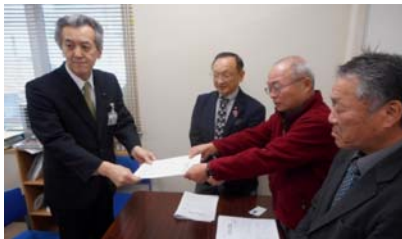
メンバー：萩原純一（局長）、青沼裕之、神田孝、岡本清、川島宏、中塚久子、根岸清和、吉成克実

「スポーツ権」の実現

理事会で確認された「スポーツ権・平和運動局」の重点的な取り組みは、なんとといっても局の名称が示すように、「スポーツ権の時代」を実現する活動に全力を尽くすことだと考えています。

スポーツ基本法制定後、各都道府県連盟、各地域連盟、そして各種目組織が「スポーツ基本法」を学びつつ、日常のスポーツ活動に根ざした公共スポーツ施設の整備・改善の具体的な要望をとりまとめ、各自治体に提案し、少なくない成果も生まれています。こうした活動を全国的にもいっそう強化することができます。

石川県連盟、
金沢市営スキー場の
施設改善を要求→



←千葉県連盟、
千葉市スポーツ
振興課と懇談

同時に、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」を実現することが、国や自治体のスポーツ振興策の共通の基本理念となっている一方で、その現実は大変厳しいものがあります。老朽化施設は改修されず公共スポーツ施設は減少傾向です。国を含め自治体のスポーツ推進計画にはスポーツ施設の整備計画が多くのところ欠落しています。賃金の向上や労働時間の短縮、消費税増税中止など、国民的な共同要求の実現も切実です。要求と運動の発展こそ豊かな権利を実現する原動力です。

そして、スポーツ権実現の運動を発展させることは、愛好者・クラブ、地域の人々が、より快適で安全にスポーツを楽しむことに貢献すると共に、2020東京オリンピック・パラリンピックの国民的な成功への確かな道筋を示すでしょう。全国連盟としても、

各地、各種目のこの分野の取り組みの交流を大いに推進します。

平和の取り組み

昨年、被爆70年の節目の年に、反核平和マラソンは、全国に大きく広がりました。フランスや韓国から33人の平和のランナーが広島～長崎をともに走りぬきました。そして、多くの地元の関係者の努力で福島から東京まで新たにタスキをつなぐことができました。2016年もこうしたうねりを引き継いで、全国各地の反核平和の取り組みを大きな目標を持って取り組みましょう。8月には、昨年結成された広島県連盟を中心とした「広島平和のつどい」（仮称）を大きく成功させましょう。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの年は、福島～東京～広島～長崎1800kmの壮大な反核平和マラソンを実施します。今から準備を開始しましょう。

昨年9月強行採決された安保法制＝「戦争法」が3月29日施行され、わが国は、戦争をしない国から、アメリカと共に世界中どこでも戦争ができる国となっています。この「戦争法」を廃止し、憲法が国家の暴走を許さないという立憲主義を取り戻す国民的な運動に、「スポーツは平和とともに」をかかげるスポーツ団体として取り組み、「戦争法の廃止を求める2000万人署名」を進めます。

5月6日からはじまる「国民平和大行進」はだれもが参加できる取り組みです。一人のスポーツパーソンとして国民として、スポーツ連盟の旗を掲げ、確実にリレーする取りくみにチャレンジします。さらには、スポーツと戦争のテーマで学習会を行うなど種目を超えた取り組みをすすめます。

（スポーツ権・平和運動局長 萩原純一）



←福島～東京～広島～長崎
1800km反核平和マラソン

メンバー：長井健治（局長）、小林章子（局次長）、小川洋、間間至、関戸弘充、園川峰紀、脇村元夫
佐藤静雄（局次長 ※全国RC）、佐藤好行（※神奈川RC）、松野俊一（※サッカー協）、山口俊彦（※スキー協）
伊賀野明（※顧問）野口信彦（※顧問） ※は委嘱委員（役員以外の協力員）

神奈川県連盟創立50周年記念事業

神奈川県連盟は4月22日～5月1日に、FSGT（フランス勤労者スポーツ・体操連盟）から3名、韓国体育市民連帯から1名の代表を招き月例川崎マラソン、横浜駅伝の参加をはじめ、文化交流として鎌倉観光等を実施しています。

神奈川県連盟という地方連盟主体の行事に海外代表を招待し交流するというのはこれまでにない取り組みであり、スポーツ連盟の国際交流が草の根で着々と広がってきたことの証明ともいえます。国際活動局として、本交流が地域間のスポーツ交流としてさらに発展していけるよう支援していきたいと考えています。

神奈川県連盟50周年記念としての国際交流事業↓



フット・ア・セット国際交流大会とFSGT創立80周年事業である刷新祭

今年5月31日から6月5日にかけて、日本からフットアセット（7人制のセルフジャッジサッカー）の代表団13名をパリに派遣します。この競技での日仏交流は今回で4回目（フランスからの招待3回、日本への招待1回）となり、今回の目的も国際大会や地方クラブとの交流試合を通じてのスポーツ交流となります。さらに、今回はテロへのアンチテーゼとしてパリ市民の日常を取り戻す運動に対する連帯の意思を示す機会でもあります。代表団には、スポーツを通じた国際交流を成功させ、平和であるからこそスポーツが楽しめるということを世界にアピールしてきてほしいと思います。

刷新祭にはスポーツの多様性、多様なあり方の可能性などについて討論したり体験したりできる場と

して、様々な新しい出会いや発見が期待できます。国際活動局としてイベントの成功に向けて積極的に関わるための準備をし、また代表団帰国後は連盟の活動に還元できるようにしていきます。



↑日本代表ユニフォームのお披露目で、大阪サッカー協植山会長（左）と握手する有瀬選手

ヴィヴィチタ世界同時マラソン

「平和を愛し、健康を願い、環境保全等を志す人はどなたでも参加できます」「参加費の1部（1ユーロ／人）は世界中で恵まれない子どもたち（難民等）のスポーツ施設の整備などに使われます」（以上、よこはまVIVICITA'の大会主旨より）。こうした大会規定は、スポーツ連盟の理念にも合致するものです。

ヴィヴィチタは毎年4月に横浜と大阪で開催され、参加者から好評を得ているイベントです。今期はさらに他の地域での開催も実現できるよう取り組んでいきます。

反核平和マラソン

反核平和マラソンは局活動の中でも大きなウェイトを占めるものです。これまではFSGTと韓国市民連帯から代表団を招待し、それぞれの国での開催も実現しています。毎年海外から招待するには費用やマンパワーの面でなかなか困難ですが、日本で暮らす外国人の方々が参加し、この事業の素晴らしさを広げていってくれるよう、英文等での大会要綱の作成など広報活動にも力を入れていきます。

この他、今秋には卓球のフランスへの代表団派遣も予定されています。国際交流をより実りあるものにしていくためのツールとして、代表団や関係者と連盟の理念を学ぶ機会をもつとともに、FSGTや韓国市民連帯などの組織や海外の文化、社会動向などを学び、伝えていく活動にも取り組んでいきます。

（国際活動局長 長井健治）

メンバー：佐藤信樹（局長）、園川峰紀（局次長）、青嶋繁太郎、岩本英、小山歩、城川善行、橋本圭司

「スポーツひろば」各組織10%増を目指そう

前期（2014～15年）は、290円に値下げして2500部を目標に、各連盟組織が自主的な目標を立てて、普及運動に努めてきました。その結果、第31回全国総会（2014年3月）以降、482部プラスの2417部（2016年5月号）となり、目標達成まであと83部というところまで到達しました。

今期も引き続き「ひろば」普及に力を入れ、当面の目標としては、第32回全国総会時の部数を基準に「10%増」を目指すこととします。

実のところ、今年3月の全国総会から1ヶ月が経ち、全体の「ひろば」部数が前月比でマイナスとなっていました。今一度目標達成に向けて、心新たに取り組みましょう。

これからの普及策としては、ひろば購読を含めたクラブ加盟（登録）を推奨し、各連盟組織で「ひろばの良さ」をPRしてもらえるように、全国的な普及運動（キャンペーン）を検討しています。

また、各都道府県連盟の「ひろば」購読実態調査を行う予定です。ご協力をよろしくお願いします。

リーフレット・パンフ作成支援

広報局では、都道府県連盟・全国種目組織から受注する形で、「独自のリーフレット」制作の支援をしています。「宣伝物を作りたいけど、誰に頼んで、どのように作ればよいかわからない」という悩みに全面サポート。興味のある組織は、メールやお電話で全国連盟までお気軽にお問い合わせください。



**全国連盟リーフレットをベースに
各組織の宣伝物に変身!**

(2500部)
目標まであと83部

**無料宣伝誌を
活用しましょう!**

「スポーツのひろば」の知名度アップのため、宣伝誌（バックナンバー）の積極的な活用にご協力ください。



ホームページとフェイスブックの活用

組織拡大を図るにあたって、インターネットを活用した広報活動は重要な役割を担っています。現在、全国連盟のホームページは、スマートフォンでも快適に閲覧できるように、リニューアルを予定しています。あわせて、「スポーツ連盟とは？」を説明するコンテンツを再検討し、内容の充実を図っていきます。

また現在、全国種目組織のフェイスブック開設支援に取り組んでいます。フェイスブックは、無料で多くの人に情報を発信できるツールです。知り合いから知り合いへ情報が拡散するので、スポーツ連盟の組織拡大に大きく役立ちます。

土台となるページの開設を代行しますので、各組織で管理者（複数可）を決めて運用をすれば、行事の案内・レポートなどを広く宣伝することができます。

スポーツ連盟の仲間を増やすためにも是非、インターネットを活用した取り組みを始めましょう。

（広報局長 佐藤信樹）

フェイスブックは…

（特徴1）情報を広く発信できる。



「いいね!」と表明してくれた人に、スポーツ連盟の情報がどんどん届く仕組みになっています。

（特徴2）思わぬところから反響がある。

東京都連盟は、剣道大会の情報をフェイスブックに流したところ、なんと岐阜県からの参加が!

（特徴3）簡単に投稿ができる。

総務局

第32期の重点的取り組み

メンバー：福島邦夫（局長）、佐藤信樹、岩本英、福島宏子

総務局の役割は、「理事会の局間の情報共有化・サポート」「主要会議の準備と文書の整理・発送」「財政の堅実な執行と予算決算の試算」「理事会の局活動以外での連盟活動を準備・サポート」の4つです。

具体的な活動としては、機関誌「スポーツのひろば」の発送・購読管理、全国通信・総会報告集などの発送実務や事務所管理、備品管理、日々の現金出納と月次決算、復興支援ボランティア活動の支援、復興支援募金の募金一覧と活用一覧作成、傷害見舞金制度の運用、地域（ブロック）スポーツセミナーの開催助成などがあります。

地域（ブロック）スポーツセミナーへの補助金は、2万円/年で、事前に要項と予算書、事後に決算含む結果報告書の提出が必要です。

第32期の重点課題は以下の通りです。

1、「連盟組織・分担金検討委員会」への支援と提言をする。

・連盟分担金において、ランク別制度廃止やランク別単価改定をシミュレーション

2、「リーダー養成講座」開催とリーダー養成委員会

(DVD制作)への支援を強化する。

・全国理事会での講座開催

3、事務局の人材体制の確立（アルバイト補強、専従の若返り）を図る。

・早期に財政アルバイトの雇用と2016年中に新規専従者の内定化

4、顕彰を検討する。

5、全国種目組織との定期協議を促進、調整する。

(総務局長 福島邦夫)

全国財政部よりのお願い

都道府県連盟分担金の請求書を送付しました。まだ、納入がお済みでないところは、至急の振込をお願いします。

東北復興支援 「義援金」報告 2016年4月6日現在

第32回定期全国総会資料(2016年3月12-13日)以降の内訳
義援金(スポーツ連盟支援募金)は、ありませんでした。

行事・競技会、ボランティア活動への支援金

春休み子どもスキー	2016/3/15	400,000
-----------	-----------	---------

募金 残高	750,431円
-------	----------

新日本スポーツ連盟附属 スポーツ科学研究所 略称AISS(アイス)

スポーツ科学研究所の主な活動は、年2回の研究会の開催と『研究年報』の発行です。その準備・総括のために、年に数回の運営委員会を開催しています。

8月末に『現代スポーツ研究』Contemporary Sport Studies創刊号を発行する予定です。現在、5月9日必着で、投稿募集と原稿依頼を進めているところです。

2016年度の研究内容

【関西方面の研究会】スポーツの文化と思想研究会を基調にして行います。そこでの柱の一つは、マルクス疎外論を中心としたスポーツ論の検討で、もう一つの柱が、障がい者スポーツの現況についてです。

【関東方面での研究会】2020年東京オリンピック・パラリンピック(2020東京オリパラ)の準備状況と問題点の分析とあるべき方向の模索が中心となります。同時に、現在も活発に活動している地域スポーツクラブの分析を行います。さらに、スポーツ競技

力向上へのサポート・学習会、「歩く権利=Rights of way」、さらに拡大して「登山の権利」も含めて、Rights of way and accessing landについても研究する予定です。

(スポーツ科学研究所事務局長 青沼裕之)

熊本地震 支援活動に ただちに取り組もう

「熊本地震」に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。スポーツ連盟は、現在できることとして「救援募金」を訴えます。「熊本地震支援」と明記の上、下記の全国連盟郵便振り込み口座にご送金ください。

お送りいただいた募金は、原則として被災地自治体に送金いたします。送金先はHP、全国通信などで公表します。

郵便振込先 加入者名 新日本スポーツ連盟
口座番号 00110-1-56939

*なお、それぞれの連盟組織で送金先を決めることがあっても結構です。その場合でも、金額のみをご報告下さい。

第32期全国会議及び主要事業予定一覧（2016年5月～12月）

全国会議・事業

都道府県連盟・全国種目組織

5月	2日	スポーツのひろば6月号発行	
	6日	原水爆禁止国民平和実行会 東京～広島スタート	
	7日		福岡県連盟総会
	8日		和歌山反核平和マラソン
	14～15日		全国野球協：選抜野球大会（静岡）
	22日		和歌山反核平和マラソン
	31～6月5日		フット・ア・セット代表団仏派遣
6月	4～5日		全国ランニングセンター総会、全国バドミントン団体戦（静岡）
	6日	スポーツのひろば7・8月号発行	
	10日	東北ブロック会議（宮城）	
	11日		神奈川県連盟定期総会、50周年記念レセプション
	11日		全国勤労者スキー協議会総会、全国卓球協議会総会
	18日		石川反核平和マラソン、富山反核平和マラソン
	19日		三重県連盟総会、京都反核平和マラソン
	24日		石川反核平和マラソン
	25日		兵庫県連盟総会
	25～26日		労山全国女性担当者会議
	26日		愛知県連盟総会
7月	2～3日		労山全国遭難対策担当者会議
	2日		東京反核平和マラソン
	3日		長野県連盟総会、三重反核平和マラソン、宮城反核平和マラソン
	3日		和歌山平和大好きマラソン、関西網の目反核平和マラソン
	9日	東海ブロック会議（愛知）	
	10日		大阪府連盟総会 50周年レセプション、兵庫反核平和マラソン
	16日		群馬反核平和マラソン
	17日		千葉反核平和マラソン
	23～24日		神奈川反核平和マラソン
	24日		にこにこベースの反核平和マラソン（福岡・北九州市）
8月	1日	スポーツのひろば9月号発行	
	6日		滋賀反核平和マラソン、8・6ヒロシマ反核・平和マラソン
	6～8日		広島～長崎反核平和マラソン
	7日		愛知反核平和マラソン、石川反核平和マラソン
	10～11日		第1回「山の日」記念全国大会（長野県松本市・上高地）
	27～28日	32期第2回三役会議・理事会	全国スキー「サマーセミナー」長良川
	27～28日	東海ブロックセミナー1部（岐阜）、西日本スポーツセミナー（京都）	
9月	1日	スポーツのひろば10月号発行	
	3～4日	関東ブロックスポーツセミナー（千葉）	
	11日		北海道反核平和マラソン
9月下旬～10月上旬			仏FSGTへ卓球代表団派遣
10月	3日	スポーツのひろば11月号発行	
	9～10日		労山東日本女性登山交流集会（富山）
11月	1日	スポーツのひろば12月号発行	
	3日	全国スポーツ祭典水泳大会（宮城）	
	5～6日	全国スポーツ祭典ソフトボール大会（岐阜）、東海ブロックセミナー2部（岐阜）	
	6日	全国スポーツ祭典陸上競技大会（千葉）	
	9日予定	全国スポーツ祭典ゴルフ大会（兵庫）	
	12～13日	全国スポーツ祭典野球大会（滋賀） バレーボール大会男子（滋賀）	
	19～20日	全国スポーツ祭典バレーボール大会女子（大阪） テニス大会（大阪） バスケットボール大会（兵庫）	
26～27日	全国スポーツ祭典シニアサッカー大会（宮城） 全国ウォーキングフェスティバル姫路城		
12月	3～4日	全国スポーツ祭典サッカー大会（兵庫予定） ミックスバレーボール大会（兵庫）	
	4日		愛知：高蔵寺弾薬庫1周平和マラソン
	8日	スポーツのひろば1・2月号発行	
	10～11日	全国スポーツ祭典バドミントン大会個人（静岡） 全国スポーツ祭典卓球大会一般（兵庫）	
10～11日	32期第3回三役会議・理事会		

※追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。